

インターネット上における関係形成

- オフラインの関係形成数・心理変数・アプリケーション使用との関連 -

小林久美子¹・坂元章¹・鈴木佳苗¹・安藤玲子¹・榎淵めぐみ¹・木村文香¹・谷田部賢一²
(¹お茶の水女子大学大学院人間文化研究科)(²電子学園総合研究所)

key words:インターネット 関係形成 親和動機

問題

メールやチャット、BBSなど、インターネットを通じてコミュニケーションツールは多くあるが、近年、それらを通して面識のない他者と出会い、関係を深める者が多くあることが指摘されている。例えば Parks and Roberts (1998) は、MOO と呼ばれるチャットを使用している者のうち、94%の人がチャットでの会話を通して面識のない他者と関係を形成していること、またそれは友人・親友・恋人などといった親密な関係が多く、それらの質も実生活で形成されるものと同程度に深いことなどを報告している。ネット上でもこのように良好な関係が築けることを利用して、最近では様々な実践が行われるようになってきた。例えば、実生活での不適応を改善するために、あるチャットでの体験を治療として用いようとする臨床実践や、不登校や障害児をネットで結ぼうとする試みがあることなどが報告されている(小林, 2000)。しかし、そうした実践が進む一方で、ネット上での関係形成についての研究は十分になされておらず、どのような個人にとってネット上の関係は形成しやすいのかなど詳細に検討されてこなかった。こうしたことは、先述の実践をより効果的に行うためにも明らかにする必要があるものと考えられる。

そこで本研究は、ネット上における関係形成(以下、オンラインでの関係形成)を行う個人について、次の3点との関連を検討することを目的とした。

- 1) オンラインおよびオフラインでの関係形成数
- 2) 心理変数(シャイネス・ソーシャルスキル・親和動機)
- 3) アプリケーション使用の種類

方法

被験者 首都圏の専門学校生 102 名(男性 90 名、女性 10 名、不明 2 名)

調査時期 1999 年 12 月

調査内容

インターネット利用に関する変数 メール・HP作成・HP閲覧・チャット・ページャ・BBS フォーラム・ネットワークゲームの8種の利用法について、1日の平均利用時間を「全くしない」から「3時間以上」まで8件法で尋ねた。
心理変数 ソーシャルスキル; Kiss-18(菊地, 1988) シャイネス; シャイネス尺度(大淵, 1991) 親和動機; 親和動機測定尺度(岡島, 1998)のうち、情緒的支持およびポジティブな刺激の2つの下位尺度を用いた。

関係形成に関する変数 オンラインでの関係形成については、まず「インターネット上で知り合った人がいますか」という質問に回答させ、それに「はい」と答えた人のみを対象に、知り合い・友達(同性)・友達(異性)・親友(同性)・親友(異性)・恋人の6種の関係にあたる人がどれくらいいるかを「いない」から「21人以上」の8件法で測定した。また、オフラインの関係形成については、実生活(学校やアルバイト先など)で知り合った人で、先述の6種類の関係にある人がどれくらいいるかを8件法で測定した。手続き 調査は、担当教師に依頼し、授業終了後一斉に実施した。回答は、調査終了後、その場で回収した。

結果と考察

オンラインおよびオフラインの関係形成数の関連 まず、ネット上で知り合った人がいるか否かについて尋ねたところ、全体の43.1%(44名)が関係を形成していることが示された。また、その知り合った人のうち、友人・親友など関係の種類ごとにその平均値を算出した。その結果、ネット上では少なくとも友人と認識できる関係にある人が、同性・異性に係わらず約3人いることが示された。

次に、オンラインでの関係形成を多く行う者は、オフラインでも関係形成を多く行っているのかを検討するために、オンラインおよびオフラインの関係形成数の相関を算出した。その結果、知り合い、友人(異性)親友(同性・異性)において、有意な正の相関が得られ、オフラインでそれらの関係数が多い者はオンラインでも同様の関係を多く形成していることが示された($r_s=.34 \sim .56$)。この結果は、オンラインで関係形成が、ネット上に限定される特別なものではなく、実生活と同様のものと認識されている可能性を示唆するものである。

心理変数とオンラインの関係形成数の関連 オンラインの関係形成を多くする者がどのような特性を持っているのかを検討するために、シャイネス、ソーシャルスキルおよび親和動機との相関を算出した。その結果、シャイネスおよびソーシャルスキルには関連がみられなかったが、親和動機については、それが低い者ほどネット上の友人(同性)が多いという結果が得られた($r=-.44$)。

アプリケーション使用とオンラインの関係形成数の関連 次に、どのようなアプリケーションをよく使用する個人がオンラインの関係形成を多く形成しているのかを検討するため、6種のアプリケーション使用量とオンラインでの関係形成数の相関を算出した。その結果、知り合いが多いほどHP作成の時間数が多いこと($r=.36$) 同性の友達が多いほど、HP閲覧、チャット、ページャ、フォーラム、BBSの利用時間が多いこと($r_s=.35 \sim .45$) 同性の親友が多いほど、ページャ・フォーラム・BBSの利用が多いこと($r_s=.42 \sim .53$) こと、さらに恋人が多いほどメールを使用すること($r=.51$)ことが示された。これらの結果は相関であるため、ここで関連がみられたアプリケーションを使用することで関係が形成されやすいのか、逆にそうした多くの関係を形成したことでアプリケーション使用が増大しているのか、その因果関係は明らかでない。これらを特定するためにも更なる検討が必要である。

引用文献

小林 久美子 2000 インターネットと社会的不適応 坂元章(編) インターネットの心理学 教育・臨床・組織における利用のために 学文社 Pp. 122-134.

Parks, M. R. & Roberts, L. D. (1998). Making Moosic: the development of personal relationships on line and a comparison to their off-line counterparts. *Journal of Social and Personal Relationships*, 15(4), 517-537.

(KOBAYASHI Kumiko, SAKAMOTO Akira, SUZUKI Kanae, ANDO Reiko, KASHIBUCHI Megumi, KIMURA Fumika, YATABE Kenichi)